



vol. 63

区民と創る港区の男女平等参画のための情報誌

世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数」世界ランキング11年連続1位

◎特集

# アイスランド の男女平等



港区立男女平等参画センター  
**リープラ**

# 特集 アイスランドの男女平等



Elín Flygenring

エーリン・フリーゲンリング さん

駐日アイスランド共和国特命全権大使

アイスランド・ハナルフィヨルズ出身 弁護士

元アイスランド男女平等評議会事務局長

元在フィンランドアイスランド大使

## ■ 11年連続、男女平等世界1位

### 大使

アイスランドが11年連続で男女平等世界1位を記録したことをとても誇りに思います。北欧諸国の一国において、人間の尊厳や人権、平等性を担保するために行動を起こし、努力を絶やさずに行動を継続してきた結果、11年連続トップで居られたのだと思います。

まだまだ取り組まなければならぬことはたくさんありますが、これからも頑張っていきたいと思います。

聞き手：アイスランドは、どのように男女平等を実現されたのでしょうか。

### 大使

歴史的観点からいえば、男女平等を進めてきた歴史はそう長くはありません。アイスランドの女性は日ごろから給与の格差に不満を持っていましたし、女性の投票権の獲得も1900年代に獲得しており、日本ともそんなに変わらないのです。

大きな転換はやはり1975年のストライキです。90%以上のアイスランドの女性が家事や育児、就業場所から離れ、レイキャビクの広場に集まり、女性の人権について声をあげました。家事や育児に協力してこなかった夫や父親、男性たちに、「いかに女性が家庭や就業場所において大切な存在だったか、「女性も社会を支える重要な柱であること」を知らしめることが出来たのです。

そのストライキ以降、世界で初めて、民主的に選ばれた女性の大統領、ヴィグディス・フィンボガドッティル氏が誕生し、勢いを増していくことが、男女平等を進めることができた要因でしょう。

2019年、アイスランドは11年連続、「ジェンダー・ギャップ指数」ランキング（世界経済フォーラム）で世界1位を獲得しました。アイスランドは、いま、世界でもっとも男女平等な国です。

一方で、日本は昨年の110位から大幅に順位を落とし、121位（153ヶ国中）でした。特に順位が低いのは、政治（144位）と経済（115位）の分野で、世界基準から見た日本のジェンダー格差は深刻です。

いったい、私たちは、男女平等の実現のために、これからどのような取り組みをしていくべきよいのでしょうか。

今回、港区にある、アイスランド大使館にご協力をいただき、エーリン・フリーゲンリング駐日アイスランド共和国特命全権大使と、朝日地球会議のために来日されたアイスランド女性権利協会事務局長のブリュンヒルドゥル・ヘイダル・オグ・オウマルスドッティルさんのお二人に、アイスランドの男女平等の取り組みについて、それをお話をうかがいました。

## ■1975年の女性たちのストライキ

聞き手：1975年の女性のストライキのことを教えてください。大使も参加されたのですか。

大使

あのストライキの日は忘れもしません。アイスランドの国中の女性にストライキの日についての情報が口コミだったり、手紙だったりと情報がいきわたり、その日がやってきました。

当時の私はまだ学生でした。多くの女性が街に繰り出し、各々が女性の人権、給与格差の是正などについて声をあげました。ストライキの日は実は私の夫（当時は恋人）も一緒に参加し、街を歩きました。当時の世界はこういった人権の平等化を求める運動がたくさん行われていました。黒人の平等な人権だけでなく、LGBT、障がい者、児童、少数民族など、多くのマイノリティーの方々が声をあげ、平等な人権を担保するための運動が世界中で起きていました。アイスランドはそういった運動や改革のなかで、女性の平等な人権を獲得していったのです。

## ■アイスランドの自然・ひと・くらし

聞き手：アイスランドの風土や生活について教えてください。

大使

アイスランドには、素晴らしいところがたくさんあります。やはり雄大で壮観な自然は大きな魅力でしょう。夏は白夜で日照時間が長く、長い冬が明け太陽の光を待ちわびた人々は、こぞって外に出かけ、ピクニックをしたりして過ごします。草花が草原に生い茂り、とても美しいです。

冬はほかの北欧と比べてそこまで寒くなく、夜空を彩るオーロラに巡り会えます。手つかずの山々や氷河、海岸は人々に忘れられない思い出となるでしょう。日本との共通点といえば、温泉も忘れられません。そして新鮮な食材や魚介類を使った食事も人々を感動させるでしょう。治安も他国と比べて非常に良く、平和な国のランキングでは必ず上位に入るほどです。警察官も銃を携帯していないという点も、治安の良さと言えるでしょう。

アイスランド人の気質は一概には言えませんが、男女において素朴で気さく、フレンドリーな人が多いと思います。落ち着いていてせかせかして

おらず、一部の機会を除いて、多くの時はリラックスした、カジュアルな雰囲気のある人々が多いと思います。現在の人口は約35万人ですが、街を歩けばすぐに親族や親せきに会うという、皆がひとつの大きな家族のような国なのです。

## ■子どものころ

大使

私の子ども時代は活発な方で、外で友人たちと縄跳びをしたり、ボールで遊んだり、ケンケンパで遊んだりしていました。現代みたいにデジタルな遊びはなかったものですから、恐らく50年前は日本の子どもたちも同様の遊びをしていたことだと思います。活発な少女だった私ですが、将来の夢に関しては「いかにして独立した人間になるか」を考えて勉学に励みました。

私の母の世代は男女平等化社会への転換期の第一世代だったといえますが、その世代でもやはりまだ固定的なジェンダー意識がありました。それを間近で見ていたからこそ、独立の重要性を知ることができました。そこで法律を学び、スウェーデンでは修士を得ました。法律を学び、しっかりとした学問を身に付ければ、自由への道を獲得できると考えたのです。私の長女も法律家の道を志し、法律家になりましたので、私の進んだ道を娘が追いかけてくれたことを誇りに思います。

## ■あきらめない

聞き手：大使は困難にあったとき、これまでどのようにそれを乗り越えていらっしゃったのですか。

大使

とにかく何か打開策はないかを徹底的に考え、行動をしました。修士をとったのちにまさか外務省で働くとは夢にも思っていなかったのですが、働いているなかでもいくつか問題に直面することありました。

例えば、私はストライキ以降、女性大統領誕生後、外務省で働きました。女性の起用が多かったものの、私自身が持っている能力以上の仕事をやり遂げるためにとにかくがむしゃらに働くしかありませんでした。何度も粘り強く問題に対処をし、それでも解決できなければ諦めるしかないこともありました。言えることは、諦めずに取り組み続けることだと思います。

## ■アイスランドのことわざ

大使

私が好きな言葉といえば、"Að hafa bein í nefinu"(アズ ハーファ ベイン イイ ネイフィヌ)です。直訳は「鼻の骨をもつこと」ですが、意味としては「行動を起こすにはガツツが必要だ」、粘り強さを持つことの重要性を訴える言葉ですね。鼻の骨はご存知の通り軟骨でできていますが、強い姿勢イコール硬い鼻をもつことというのがこのアイスランドのことわざです。

## ■アイスランドからみた日本・日本人

聞き手:アイスランドでは、日本に対してどのような印象をもたれているのでしょうか。

大使

日本はアイスランドから9000km以上離れている遠い国、というイメージではありますが、それだけではなくモダンな都市のけん騒と伝統的なお寺や神社が隣り合わせの国というイメージがあります。他国とは違った若者文化もありますね。自動車企業のイメージも強く、工業が発展しているという印象もあると思います。

日本に赴任して私自身が感じたことは、日本の方はとても謙虚で優しく、他者を思いやる人々が多いと思いました。また様々なものにおいても細部にこだわりが感じられるものが多くあると思います。駐日大使として就任してから様々な場所に出向き、アイスランドの男女平等についての講演を依頼されることがあります、その先々で良い教育を受け、社会のために働きかけている女性が非常に多くいらっしゃることを知りました。

## ■港区のくらし

聞き手:港区での生活はいかがでしょうか。

大使

非常に住み心地がよいですね。ここ港区には多くの大使館があり、他の北欧大使らとも交友があるので、プライベートの日には彼らと食事をしたりもします。国際色豊かな都市、東京で、港区は私にとって特別な場所です。

## ■アイスランドのこれから

聞き手:アイスランドは、これから男女平等の実現に向けてどのようなことに取り組まれるのですか。

大使

育児休暇の充実化、賃金の平等化における法制化、男女だけでなく性的少数者に対する差別の撤廃、女性への身体的搾取の禁止、同意なしの性的交渉の禁止やDV被害者へのシェルターの充実化など、多くの法律や制度を作り、施行していますが、まだまだ真の男女平等の国としては到達しているとは言えません。

性暴力被害者をなくすことが重要で、それらをいかにしてなくしていくかが課題です。育児休暇を延ばすことでも課題でしょう。また国連機関のUNウィメンが行うHeForSheのキャンペーンももっと国内で活発化させ、男性への啓発をしていくことが必要でしょう。

## ■日本の課題解決に向けて

大使

日本が男女平等の道を歩むには、ロールモデルとなりうる女性の存在に目を向けることです。彼女たちが自立した女性となるために何を行ってきたか、そしてこれから何を目指しているのかに耳を傾けることです。

私はこれまで非常に多くの高い教育を受けた日本の女性たちにお会いし、私もまたインスピアを受けました。そういった方々の存在にスポットライトがあたり、そして積極的にコミュニケーションをとり、自身の追い求める夢を諦めないでいることが大切です。

## ■リープラへのメッセージ

まず40周年を迎えること、おめでとうございます。これからも長く、そして諦めずに皆様が思い描く男女平等の社会に向かって取り組んでいただきたいと願います。

そして港区の皆様に、センターの活動をお知らせし、男女平等を一層広めていただければと思います。



Brynhildur Heiðar-og Ómarsdóttir  
ブリュンヒルドゥル・ヘイダル・オグ・  
オウマルスドッティル さん

アイスランド女性権利協会事務局長

HP: <http://www.krfi.is>

## ■アイスランド女性権利協会

アイスランド女性権利協会は、NGO(非政府組織)です。女性の参政権や男女平等のためにたたかう協会として1907年に設立され、今年で設立112年になりました。現在600人のメンバーがいます。

NGOとして私たちの基本的な仕事は、政府を監視することです。平等センターや議会の動向について報告書を作成し、改正が必要な法律を国会に提出しています。

また、私たちは、国外のことも自主的に監視しています。例えば、女性や人権に関する国連の会議などで、アイスランド政府が正しい発言をしているかをチェックしています。私たちは、独立した政府の監視役として、非常に重要な役割を担っています。

ジェンダー平等が実現するよう、国と地方自治体の両方に圧力をかけることも重要な役割の一つです。主要な活動テーマは、女性の政治参加です。議席数の割合を男女平等にすることを私たちは求め続けてきました。近年では、全ての学校でジェンダー教育を必修教科にすることを目指しています。

その他には、私たちには専従のスタッフがいるため、スタッフがいない国内の団体と国際的なフェミニズム運動の連絡窓口としての役割も担っています。

アイスランドが、10年連続ジェンダー平等の世界1位になったことで、私たちの活動は国外からも注目を集めようになり、問い合わせを多くいただくようになりました。そのため、私たちがアイスランドでおこなっている活動を国外の人々に伝えることも、協会の重要な役割になってきました。

私は、これらのことととても幸せな役割だと思っています。なぜなら、私たちが公正であることを意味していますし、アイスランドで起きていることを世界中の人が取り入れることは、アイスランドでの生活をより良く、また調和的していくと思うからです。

## ■賃金格差

アイスランドは実際のところ完全なジェンダー平等を達成しているわけではなく、女性の平均賃金は男性の85%です。この状況は変わらなければなりません。

2012年に男女同一賃金の基準が企業に自主的に導入され、2017年、政府は男女同一賃金を義務化することを決めました。同法に基づき、25人以上の従業員を雇用している企業や組織は、生じた男女賃金格差が性別に基づくものではないことを、今年度末までに示すことになっています。

## ■育児休業制度

現在、育児休業の期間は、父親のみ3か月、母親のみ3か月、自由にシェアする期間3か月と合計9か月です。育児休業制度20周年にあたる2020年には新しい法案が提出される予定で、育児休業期間が現在の9か月から12か月に増える予定です。内訳としては、父親5か月、母親5か月、自由にシェアする期間が2か月で、父親だけでなく同性婚の場合でも適用されます。しかし、アイ

スランドの保育所は2歳児未満は制度化されでおらず、12か月でも不十分です。他の北欧諸国の育児休業は24ヶ月の取得が普通なので、アイスランドはかなりの遅れをとっています。今後、24ヶ月の取得を目指して取り組んでいきます。

## ■女性に対する暴力

アイスランドにおける深刻な問題としては、他国と同じように女性に対する性的暴力、DV、職場でのセクシュアルハラスメントなどがあげられます。

ほとんどの性犯罪は警察に通報されておらず、警察に通報されたとしても有罪判決にいたるものには、ごく一部です。2008年から2009年の2年間にわたって警察に通報された189件のレイプ事件のうち有罪判決を受けたのは23件のみでした。

一方で、同時期、国立病院の主要なレイプクライシスセンターでは、約219件の報告があり、性暴力サバイバーのメインセンターでは、460件の事件の報告がありました。

2018年からアイスランドでは性的同意に関する新たな法律が施行されたことは、大きな前進です。

同意がないということは性的暴力であり、同意を加害者側が証明しなければならなくなりました。

## ■DV被害者・加害者支援

アイスランドには現在、NGOが設立したシェルターが首都に一つあります。

そのシェルターは、国と地方自治体の両方から財政的な支援があり、性暴力サバイバーを支援し、カウンセリングを行っています。

また、レイキャビクと北部のアーフレイリに政府と民間のNGOが協働する暴力相談支援センターが設置されています。

このセンターでは、女性の被害者だけでなく、男性も受け入れています。そこでは、被害者対応の訓練を受けた警察官が事情聴取できるようにし、また、暴力被害対応に慣れているソーシャルワーカー、カウンセラーが常駐しています。

そのため、この施設は、被害者が安全を感じられる施設となっています。この施設を訪れれば、事件の報告のためにわざわざ警察に行かなくて良いのです。

加害者に対する施設もあります。国内の犯罪者に取り組む心理学者によって運営されており、加害を起こさないようにするためのプログラムを実施し、加害者のサポートグループを作り、そのグループを通して研究をしています。

## ■アイスランドの女性運動

アイスランドにおいて、フェミニズム運動は、19世紀の女性参政権運動に始まり、今日の#MeToo運動につながっています。

1975年のストライキは、人々に女性達が変化していることを証明しました。さらに重要なことは、女性達が団結したことです。このことは、変化を絶対的なものにしました。

さらにアイスランドのジェンダー平等に急速な変化が見られるようになったのは、2009年の金融危機以降のことです。女性議員の割合が4割を超え、この10年で法律の改正が着々と進んでいます。

社会変革というのは、初めはゆっくりと、しかし動き続ければ、坂を転げ落ちる石のようにスピードを増して行きます。アイスランドは、もう二度と女性を差別する国には戻らないでしょう。

しかし、現在、ヨーロッパ全土に見られる憂慮すべき現象として、アンチデモクラシー、有色人種や外国人、女性を差別する思想の広がりがあります。これは、民主主義にとって大変危険です。

政府は平等に向けて取り組む組織を支援するべきで、ここでの平等とは、ジェンダー平等だけでなく、肌の色が異なる人や障がい者も含めたすべての人々のために社会正義を高めることです。

日本は、ジェンダーギャップが依然として110位(2019年121位)ということですが、これはまったく容認できません。なぜなら、日本は高いモラルと豊かな資源を持った国だからです。

社会を変えるため、ジェンダー平等を実現するためには、政治の力が必要です。

## ■リーブラへのメッセージ

女性の権利のために取り組んでいる、地域で活動する団体を大切にしてください。

団体の支援は重要です。それぞれの運動こそが、社会の変革を起こすことができるのです。

# リーブラからのおすすめ図書



『女の権と性  
わたしたちの選択』  
日本家族計画連盟編  
[径書房 1984年]

私が子育て中に出会ったこの本は、1983年、4回にわたっておこなわれた連続シンポジウム「女の権と堕胎罪を考える」の記録です。

この時代、中絶の規制強化を狙った優生保護法改正問題が起こり、女性たちの心にさざ波を巻き起こし、国際的な流れの中で、女性差別撤廃条約が国連を通じて日本に批准勧告が出されていました。

女性の性と人権について、産む性を持つ女たちは、産む・産まないの選択は基本的人権であるという事、産むのは私、私の身体は私のものという問いに真剣に向き合い、意見を出し合い、歴史を見つめ、様々な立場から本音で話し合いました。

心身の自由と他者から抑圧差別で悩んだ時、生命の尊重と女の自己決定権の原点に戻してくれる指針の1冊です。悩んだ時は手に取って下さい。

(男女平等推進団体「劣化ウラン廃絶みなどネットワーク」代表・「歌のあつまり風」代表・港区立男女平等参画センター運営協議会副会長 宮口高枝)



『海のプロフェッショナル② 楽しい海の世界への扉』  
窪川かおる編/海洋女性チーム著  
[東海大学出版会 2013年]

海に関する学問は、科学分野(生物・物理・化学・地学)と工学分野の総合科学および政策・経済・運輸と実に幅広い総合的なものです。しかし海に関する職業に就く女性が少ないのが現状です。この本では、女性の進出を願い、海に関わる様々な分野で活躍する女性たちが執筆しています。

「学ぶ」「進学する」「仕事にする」の3部構成でイラストや写真も多くどこから読んでも図鑑のように楽しめるのが特長です。途中挟まれるコラムでは、生き生きと海に関わる彼女たちの日常も垣間見ることができます。海上保安官・研究者・船乗り・海女等々、結婚・出産・就職等を経て今も海に関わり続けている彼女たちが圧巻です。

ぜひ『海のプロフェッショナル—海洋学への招待状』(2010年)も合わせてご覧ください。

(東京海洋大学 男女共同参画推進室女性研究者支援機構コーディネーター 藤森京子)

## 今号の表紙

作品:「明かり」

制作:男女平等学習団体 ステンドグラス part II



私たちの会は、指導してくださっている先生のもとで、28年前に始まりました。参加者は、同じ職場、地域の婦人会など、それをつけながらのある女性たちで、15、6年前までは月3回、仕事をしている人のために、昼の部だけではなく、夜の部の二つの時間帯をもうけていました。現在は月1回、参加者の都合のよい時間、曜日に活動しております。

これまで制作してきた作品は、ランプシェード、玄関の明かりとり(パネル)、万華鏡、時計、小物、写真立て、お休みライト、ティッシュケース、鏡、テラリュームなどで、1年に1回のペースで、港区内のさまざま公共施設で展示をおこなってきました。リーブラではフェスティバルにあわせて作品を制作し、その展示をご覧になった方々からきれいね、と言っていただいたことも大変うれしいことでした。好きなものを自由に作る楽しさ、出来上がったときの喜びは格別です。明かりを灯った作品は、作り手自身、その美しさに感動し、さらに作品を作る意欲がわいてきます。活動を通じて、気持ちが豊かに、生活にはりあいができます。

# お知らせ

3/7(土)  
10:00 - 20:00

## 国際女性デー2020 GenerationZが拓く リーブラ・ミーティング



2020年3月7日(土)に「令和元年度みなとパーク芝浦フェスティバル」が開催されます。

その中でリーブラは3月8日の国際女性デーに合わせて、Z世代(1990年代後半から2010生まれの若い世代)のスピーチ、団体ワークショップ、活動報告展示、東京海洋大学の学生によるアイスランド料理教室など次世代を担う学生を中心とした男女平等推進イベントを行います。

港区内の大使館の推薦による男女平等に関する絵本の展示や、マスコットキャラクター「りぶら」も登場します。皆様、お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

### リーブラ・ユース部 参加者募集

リーブラ・ユース部は、ジェネレーションZ(1990年代後半から2010年までに生まれた現在10~20代の若者)で、ジェンダーに関する個人やグループが参加するゼミナール形式の学習会です。



- 【内 容】** ▶ 日頃から感じていることを同世代と話し合う場として、気軽に参加できます。  
▶ 学習会で、研究テーマの設定、調査方法や結果のまとめ方、発表方法について、他の参加者やファシリテーターからアドバイスを受けることができます。
- 【日 程】** 原則月1回。参加者と相談して開催日を決めています。  
開催日は、リーブラホームページ、メールマガジン、SNS等でお知らせいたします。
- 【参加方法】** 申し込み、事前の予約不要。参加費無料です。
- 【会 場】** リーブラ 学習室 (みなとパーク芝浦2階)

#### 港区立男女平等参画センター リーブラ

〒105-0023 港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦  
Tel: 03-3456-4149 Fax: 03-3456-1254  
HP: <https://www.minatolibra.jp/>



- アクセス**
- JR「田町駅」東口(芝浦口) 徒歩5分
  - 地下鉄浅草線・三田線「三田駅」A6出口 徒歩6分
  - ちいばす◆芝ルート・芝浦港南ルート(品川駅港南口行)「みなとパーク芝浦」徒歩0分  
◆芝浦港南ルート(田町駅東口行)「芝浦一丁目」徒歩4分
  - 都営バス(田92・99)「田町駅東口」徒歩6分

